

検討の状況は

平成25年7月、「新しい地域コミュニティのあり方検討委員会」を立ち上げ、これからの豊岡における地域の仕組みづくりを検討しています。委員長は、島根大学准教授の作野広和さんで、市民も委員として参加しています。

検討委員会では、今後の方向性について、どのような論点があり、どのように議論を進めて行くののいいのかを検討しています。

また、市では、検討の資料として地区カルテ(地区の現状をまとめるもの)の作成を進め、市内29地区を回り、各区長や公民館との意見交換なども行いました。

今後、検討委員会では、地区カルテなどを基にした市内の現状を踏まえ、先進地の事例を研究しながら、各項目について具体的な議論を進めます。

先行実施する地区を設定しながら取り組み、平成26年度末を目途に、市として目指す



▶検討委員会の様子



島根大学教育学部
作野広和准教授

住民自治のスタート

「自分たちの地域は、自分たちが守り、創る」という発想が住民自治の基本です。我が国では、これまで行政が住民の自治活動をリ-

ドする傾向にありました。その結果、住民からすると、行政の仕事を「押しつけられた」という印象がぬぐえませんでした。これからは、住民が主体となって、それぞれの地域に即した住みよい地域づくりを行う必要があります。

市では、検討委員会を開き、そのための仕組みづくりを検討しています。住民の皆さんが地域の課題を解決しやすくなり、地域での快適な暮らしを実現したりするための考えをお聞かせください。

作野広和准教授の紹介

島根大学教育学部共生社会教育講座准教授。専門は農村地理学、過疎・中山間地域論。総務省・農林水産省・国土交通省の各種委員等を務め、島根県内の市町の地域づくりにも参画。自らも江津市松平地区に研究室分室「松平ラボ」を置き、住民との協働による活動を展開中。

豊岡市においては、但東地域の地域づくりに平成23年度から関り、本年度から、市全体の地域コミュニティアドバイザーを務める。

検討の論点は

べき形をまとめる予定です。

地域の仕組みづくりの検討を進めるに当たっての論点として、まず、「地域の活動拠点となる施設をどこに定めるか」、次に、地域コミュニティ組織が立ち上がり、自主自立の活動を始めるための「人的な支援や、財政的な支援の検討」があります。また、これから仕組み以外に、「地域の中の議論をどう深めていくか」も大きな論点です。

住民みんなで考え、学びながら進めることが大切です。市は、研修会や意見交換の場を設けるなど、機運の醸成に努めます。

地区カルテとは

地区公民館の区域を単位として、人口、施設、地域の組織、活動などの現状を記載した資料を「地区カルテ」といいます。このカルテを作成するためには話し合うことで、地域の状況が明らかになり、現状を再認識することができます。



▶地区との意見交換で地区カルテづくりをする(菅合地区)



知っているようで知らないことが発見できるなど、情報をもとめることで見えてくるものがあります。また、他の地域と比較することで、自分の地域を客観的に見ることもできます。

地域の現状を知ることが、この検討のスタートなのかもしれない。

ただ今、活動中

すでに、新しい地域コミュニティの活動が始まっています。住民の方々が主人公の取り組みをいくつか紹介します。

■資母地区(但東)

資母地区では、平成25年「地域づくりの会・しば」が発足。自分たちでできることは自分たちで行うという活動を始めています。

たとえば、市の空き家バンク制度と連携した空き家対策の活動をはじめ、遊休農地解消モデル事業として耕作放棄地の対策、集落行事への応援活動を展開しています。

また、「宝まつり」は、地域を挙げての手づくりの取り組みです。住民の絆を深めるものとして、平成25年に2回目を開催しました。

宝まつりは、地域にある宝(人材や物)の発掘の場でもあります。



▲遊休農地に咲いたひまわり(資母)



▲笑顔で、気持ちを合わせて(資母)

■竹野地区(竹野)

竹野地区にある竹野浜自治会は、県のふるさと自立計画推進モデル事業をきっかけに計画を策定し、「ロジナリエ(和みの灯り)」、「ブラタケノ(まち歩きガイド)」、「にぎや

か産直」に取り組んでいます。「ロジナリエ」は竹野の夏の風物詩にもなっています。住民主体の活動として、この三つのプロジェクトの拠点となる場所探しや、地域の空き家調査などの空き家対策の取り組みが始まりました。



▲まち歩きで地域を知る(竹野)



▲温かみのある灯りがまちを彩る(竹野)

■西気地区(日高)

西気地区では、西気地区活性化委員会を組織し、現在、ふるさと自立計画推進モデル事業に取り組んでいます。

平成25年3月末で西気小学校が閉校したこともあり、地域の将来を住民みんなで考えようという機運が盛り上がりつつあります。西気小学校跡地の活用を含め、「トナリの村ガイドツアー(まちあるき)」を実施しながら、地区の計画を策定中です。

また、全但バス神鍋線の利用促進にも地域を挙げて取り組んでいます。



▲みんなで知恵を出し合う(西気)

但東地域づくり大会

- と き 3月21日(金・祝)午後(予定)
- と ころ 但東市民センター
- 内 容
 - ・基調講演 辻駒健二さん
広島県安芸高田市市川根振興協議会会長
 - ・但東での取り組み報告
 - ・パネルディスカッション
- 問合せ 但東支所地域振興係 ☎54-1000(代)

どうぞ
お越し
ください

それぞれの地域で、地域の将来について考え、まず一歩を踏み出しましょう。